

六甲カトリック教会 教会報



新年会 と 新成人祝福式

1月12日(日)恒例の教会の新年会と新成人のお祝いパーティーが開かれました。クリスマスから松の内を過ぎようやく落ち着いたかに見える教会もまた少し賑わいを取り戻しました。ミサは主の洗礼の主日。イエスがヨハネから洗礼を授かる場面、主の声が「これはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」と天から響きます。アルフレド神父さまは説教のあとで、ことし成人を迎える3人の出席者を祭壇の方へ招き祝福をされました。希望の成人の門出、まさしく「わたしの愛する子、わたしの心に適うもの」となって欲しいと思います。

新年会は、林壮年会会長の進行ではじまり、イグナチオホール一杯に人々が集まりました。アルフレド神父さまの乾杯のあと新成人に記念品が贈呈され、新成人3人がそれぞれの抱負を述べました。そして新受洗者、転入者の紹介と挨拶があり、和やかなパーティーとなりました。勝ち抜きじゃんけんゲームで盛り上がり、最後にアーメンハレルヤを歌って中村神父さまの締め挨拶で散会しました。なお、今年の新成人は全部で5人です。海外留学中で、この日出席出来なかった橋岡尚さんがコメントを寄せてくれていますので紹介します。





新成人になって思うこと 橋岡 尚

僕は現在アメリカの大学の2年生ですが、新成人になったという感覚がなかなか湧いてきません。というのは日本では20歳になると飲酒や喫煙が合法的に出来るようになりますが、僕のいる州では全て21歳からです。また、日本にいないために選挙にも行くことができません。こんなわけで自分自身が法律上大人になったという実感はまだありません。日本に帰ったらその時に感じるのかなと思います。僕は現在、勉強のかたわらでHip-Hopというジャンルの音楽を作っています。音楽の力は大きく、戦争を世界からなくすことも出来るのではないかと考えています。音楽に世界平和の気持ちを込めながら今後も頑張っていこうと思います。まず、ことしはアルバムの完成に向けて制作を続けて行きます。教会のみなさんにも聴いていただければ嬉しいです。

パパ様の光る「おことば」を味わう（第1回）

昨年の11月、フランシスコ教皇が来日され、カトリック教会こぞっての歓迎のみでなく、国民の多くが親しさを感じ、歓迎の意を表したことは特筆すべきことでした。「パパ様」は現代の日本社会に大きな「余韻」を残されたと思います。教皇さまは短い日程の中を精力的に各地を訪問されスピーチされました。9カ所(東京6広島1長崎2)で発せられたメッセージはそれぞれ大切なことを示されています。アルフレド神父様から各スピーチの翻訳記録をいただきました(カトリック中央協議会のホームページでも読めます)ので、それを広報部員で手分けして読み込み、おことばの一部を「抄録」として紹介し感じた事を綴って貰うことにしました。第1回目は広島平和公園でのスピーチと上智大学でのスピーチです。感想の筆者はペンネーム(漢字一字)にしました。(編集部)

☆広島平和記念公園での「抄録」

2019年11月24日 広島平和記念公園にて



思い出し、ともに歩み、守ること。この三つは倫理的命令です。これらはまさにこの広島において、いっそう強く普遍的な意味をもちます。ここで起きた出来事を忘れてはいけません。そして、ともに歩むはわたしたちが互いを大切にし運命共同体で結ばれていると知るなら実現可能です。共通の未来を確実に安全なものにするための力となるのです。

人類最初の被爆地での教皇のスピーチは熱のこもった言葉が随所に現れる。平和の巡礼者として広島を訪れ、犠牲者の無念を胸に秘めじっと祈るのだ、と。そして核戦争の脅威におびえても耳を貸してもらえない小さき人々、弱き人々への思いと、大国の為政者に対する率直な怒りが感じられた。(具)

☆上智大学での「抄録」

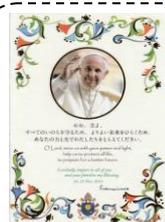
2019年11月26日 上智大学四谷キャンパスにて



イエズス会が計画した「使徒の世界的優先課題」は、若者に寄り添い、教会全体が若者を希望と関心をもって見つめています。若者たちが単に教育の受け手となるだけでなく、その教育の一翼を担い未来のための展望を分かち合うことうことに注力すべきです。大学での勉学は少数の人の特権とされるのではなく、公正と共通善に奉仕する者という自覚をもち、それぞれが課された分野で果たすべきなのです。

上智大学は我が国のイエズス会の伝統ある教育機関である。教皇の期待は大きい。しかし所謂エリートと呼ばれる、才能と機会に恵まれた者(上智大学の学生もその範疇に入る)は、己のためだけでなく、その能力を他者のために使ってこそ彼らの価値が磨かれるのである、と教皇は語る。私たちにもあまねく求められているのだ、と改めて思う。(如)

※教皇の写真は(c)Vatican Media また教皇スピーチはカトリック中央協議会の翻訳文に則っていますが、「抄録」なのでその意味を違えることのない程度に表現を変えている部分があります。



教皇来日記念カード

フランシスコ教皇来日記念の祝福カードが教会に届き、教皇ミサに与れなかった方へ配布されました。ハガキ大で透かしの入ったカラフルなカードで、パパ様の温顔がほほえんでいます。「おお、主よ、すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくため、あなたの力と光でわたしたちをとらえてください」と記されています。

結婚準備セミナー

結婚準備セミナーが2月1日(土)から3月21日(土)まで毎週開かれます。カトリック教会で結婚式を挙げるカップルのためのセミナーです。二人で新しい家庭を築いていく結婚生活には、喜びに責任も伴います。そして、それにふさわしい心の準備が必要です。結婚準備セミナーは、このようなお二人のために開かれています。

プログラムは、「わたしたちはカップル」「愛を育てる家庭と経済」「尊いのち」「二人で歩む道の価値観」などをテーマに8回にわたり、未信者の方の参加も前提にしていますが、聖書に親しむ機会も設けられています。その日のテーマに基づいたカップルの話し合いを中心に、新たな気づきを得て、良い準備を進めて頂くことを目的としています。

カップルのお二人がご一緒に参加されることが原則で、受講するにあたって、前述のとおりカトリック信者であるかどうかは問いませんが、カトリック教会(当教会以外も含めて)で挙式する場合は、このセミナーを受けていただく必要があります。

受講者のアンケートでは「リラックスした雰囲気落ち着いて話し合いができて良かった」「この機会に、〇〇についての彼(彼女)の考え方が初めて聞けて良かった」等の好評が多く寄せられています。ご結婚を前提に交際をされているカップルは是非ご参加下さい(お友達や知り合いの方にもお勧め下さい)。(結婚準備セミナースタッフ)

四旬節から復活主日へ

教会カレンダーより

ことしの2月26日は灰の水曜日です。四旬節はこの日からはじまり、4月12日の復活主日までの40日間は、イエスの断食と祈りに倣った苦難の期間です。この期間中ミサは栄光(グロリア)は歌いません。灰の水曜日のミサでは、前の年の枝(棕櫚やオリーブ)を燃やした灰を額にいただき、イエスの苦難をしのびます。春分の日はことしは3月20日、この日から最初の満月の日(4月8日)を経て最初の日曜日が復活主日です。逆算して40日目(安息日である日曜日を除いて計算)が2月26日なのです。洗礼志願者はこの四旬節の間ひたすら洗礼の準備にかかり、また信徒も告解や回心に励みます。回心とは神に向き合うための心の転換のことです。四旬節から復活に至るまで、かずかずの祭日があります。枝の主日(受難の主日)は4月5日、イエスがエルサレムに入城します。人々は枝をもってイエスを迎えます。しかしイエスはエルサレムに入ってからむしろ迫害を受け、その運命を悟ったイエスは弟子たちと最後の晩餐を囲み(聖木曜日)、ユダの裏切りを経て捕縛され、ピラトのもとで裁かれ十字架につけられます(聖金曜日)そして翌土曜日の夜は復活徹夜祭ではじめて主の復活を祝います。ミサではグロリアが復活して歌われます。そしてさらに明けた日曜日が復活主日となります。2月にはじまった四旬節を越えて4月のご復活。春爛漫の時節になりますね。「冬来たりなば春遠からじ」です。灰の水曜日は復活への原点であることをもう一度考えてみることは信徒として大切なことでしょう。(那)

阪神淡路大震災 追悼祈念ミサ



阪神淡路大震災が発生してから25年になります。今年も17日に教会で追悼祈念ミサが行われました。東遊園地にある「1.17希望の灯り」から分灯されたいろが、今年初めて祭壇に灯されました(写真)。この灯りは、大震災の記憶や、そこからの復興、そして慰霊の意をこめて後世へと伝えるために常時灯されているものです。

またこの日はあちこちで催しがあり、与えられた命に感謝し、亡くなった人たちの分まで力強く生きること、風化させないこと、みなぎ助け合っていくこと、今後備えることなど、それぞれが心を新たに誓った一日でした。

越年越冬炊き出し 体験記



ずらりと並んだお椀の数！

1月5日(日)は越年越冬炊き出しのカトリック当番日でした。三宮東遊園地南側(現在花時計が移設されているエリア)で「冬の家」炊き出しが行われました。10時から始まるということでしたが、教会から少し遅れて到着。すでに多くのボランティアの方々準備を始めていました。早速、まな板と包丁を渡され、この日のメニュー・中華丼の具のニンジンのカットする作業をお手伝いしました。たまねぎ、しいたけ、キャベツ、白菜などと、ブタ肉を小さく切って用意します。大鍋2つぶんなのでかなりの分量です。大鍋に油を垂らし、豚肉とタマネギを炒め、少し水を足しながら野菜を次々と放り込みます。大きなしゃもじでぐるぐる攪拌します。ダシ、調味料、片栗粉を水溶きして加え、12時半には完成。ずらりと並んだおじさんたちに手ぎわよく渡して行きます。お漬物、七味もサービス、ひととおり全員に生き渡ったところで、希望者にはお代わりをサービス。おみやげのビニール袋にはお茶、みかん、菓子パン、懐炉が入っています。百人ほどのおじさんはおとなしく並び、中にはボランティアの作業を手伝ってくれたりする人もいました。お天気もよく、おだやかな半日でした。が、調理だけでなく準備、設営、撤収、運搬、など大変な分量の作業です。このような活動をコンスタントに続けている教会のパワーと熱意、愛の力はすごいものだと思いましたが、わたしの「お手伝い」はなんの助けにもならなかったと思います。ひとりでも多くの方々の理解と参加、協力を望みたいと思いました。

(詫 洋一)



大鍋と格闘する筆者



グラダ御影山手から六甲教会混声合唱団にお礼状が届きました

六甲教会混声合唱団の皆様へ

先日はグラダ御影山手へお越し頂き有難うございました。

事前に六甲教会混声合唱団のクリスマス会のポスターを掲示いたしますと「今年も来てくださるのね。楽しみです。」という声が多く聞こえ心待ちにされていました。

面白いトークにご入居の方も、思わず笑顔になり、ピアノ伴奏が始まると自然に手拍子が起こり、口ずさまれていました。本当に和やかな雰囲気の中あつという間に時間が過ぎていきました。終了後も「本当に楽しかった。」と皆様、口をそろえて仰っていました。

是非、また来年も皆様の素敵な歌声を心より楽しみにしております。

日に日に寒くなって参りますので、どうぞお体にはお気をつけてお過ごしくださいませ。

グラダ御影山手スタッフ一同



クリスマス音楽の集いに寄せて

昨年のクリスマス音楽の集いについて、聖歌隊新人の角本直樹さんからの感想文です

「クリスマス音楽の集い」では、楽しいひと時を過ごすことができました。オルガン演奏がベースになっている「集い」の前半では、聖歌隊による合唱や珍しいバロック・ヴァイオリンによる演奏、後半では全身にしみわたる澄み切った声の独唱や、心を揺さぶられる迫力ある歌声に震えました。いずれもこの教会の信者の方たちが主演されておられたとの事で、その文化度の高さ・豊かさに驚きました。高校時代に体験した合唱の楽しさが忘れられず、YouTube でチェックしていた聖歌隊に加えて頂きました。50年間放蕩息子をしていたので当然なのでしょうが、お祈りなどの変化にも驚いています。神様の呼び名が「イエス様」になっていたり、「主の祈り」が口語体になっていたり、ミサ参列の度に沢山の驚きを発見しています。今後ゆつくりと聖歌隊活動を続け、いつか「帰ってきた放蕩古希爺(コキジジー)」と呼ばれるようになりたいと願っています。



「イエスの洗礼」は、降誕・公現に続く、救いの実現の神秘の中心部分だと言われています。新約聖書のうち、ヨハネによる福音書を除く3つの共観福音書において、イエスの幼年時代は省かれたりしていますが、洗礼に関しては同じような内容の並行記事となっています。ルカによればイエスが洗礼を受けたのは30歳のころだったということです。



「主の洗礼」の主日に思う

アルフレド神父様のお説教で、当時の30歳は今の60歳くらいに当たると説明されました。『それまではナザレの田舎で大工として普通の仕事をしていた』『ヨゼフはすでに亡くなっていてマリアとともに暮らしていた』『(神からの啓示があったのか)そこでの生活を一切捨て、ヨルダン川に赴き、ヨハネの洗礼を受けた』神父は続けます。『イエスは洗礼で、今までとは全く違う自分になった。修行中はこれからの生き方を考えたに違いない』と。そして『私たちの洗礼も同じこと、それはすなわち新しく生まれ変わることだ』『私たちの人生には、入学・卒業・就職・結婚・出産など様々な出来事があるが、洗礼ほど自身を変える出来事はない』と、言われました。

そうしたお話から「今までの自分と、生まれ変わっているであろう自分を見つめ、(洗礼が遠い過去であっても)常に神への道を模索しなければならないのだ」と、私は理解しました。

新成人のお祝いが同日行われました。また、令和になって2年目を迎えます。私たちは新たに変わることは難しいけれども、節目節目で自身をチェックしていく必要があるのだと思いました。

(マルガリタ マリア)

社会活動部より

- ◆2月5日(水)10時 手芸の集い(第1、第2会議室)どなたでも参加自由です。
- ◆2月7日(金) 初金ミサ後 2019年度 第3回社会活動部連絡会(第4会議室)
- ◆2月8日(土)10時 炊き出し (イグナチオホール台所)
小野浜グランドにて、おじさんたちのお話相手や配食だけでもOKです。
- ◆2月16日(日)10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)
- ◆2月24日(月)9時半 ともしび会 施設の子どもたちへのケーキ作り(イグナチオホール台所)



施設管理部園芸係



暖かい冬が続く、主日のミサの後は花壇の周りには幼い子供たちが集まってきます。花壇を飛び越え涸れた池に入って楽しそうに遊んでいます。

少し大きい子供たちは、上手に如雨露を使って水まきのお手伝いをしてくれます。そして、お母さん達が花壇作りに参加して下さるようになりました。

春を告げるクリスマスローズが信徒会館の入り口横に、黄色いリュウキンカは小聖堂の入り口近くに咲き始めました。クリスマスローズの名前はキリスト誕生時に開花していたところから呼ばれ、お祝いの花として使われるようになりました。日本では1月中旬～3月に開花し茶花として愛されています。野生のリュウキンカは湿地帯に群生します。花壇に植えると繁殖力が旺盛のためバックヤード西前に徐々に移植してきました。今年は黄色の絨毯ができました。どちらも(キンポウゲ科)で花びらに見えるのは萼片で、めしべの基部の周りの小さな塊が花びらの退化したものです。信徒会館南面のアネモネも同科です。覗いて見てください。



書室だより

<2019年12月寄贈図書紹介> (信徒からの寄贈)

愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—

W・ジョンストン サンパウロ 2017年10月刊

W・ジョンストン神父は、10年前に帰天された世界に知られるイエズス会士。キリスト者を念頭に、事物の核心に横たわる神秘へ向かう旅の中で、現代に則した霊性探求の道の道案内と手助けをしてくれる。多岐の内容にわたるぶあつい本であるが、こなれた日本語に翻訳されていて解りやすい。キリスト教の伝統・神秘主義と、科学と、アジア(禅など)との対話…。現代の神秘的な旅(愛・一致・活動)へ誘う。

▶「教皇フランシスコ(キリストとともに燃えて)」を読んで

A・アイヴァリー著 明石書店

昨年11月に来日されて私たちに、生命の大切さと核兵器廃絶をと、被災者や若者に向けて…心の底にまで染みとおるメッセージを残していかれました。バンコックから来て、次の日東京から長崎・広島・東京へと移動、その間に4つの講話と説教、3日目は都内5ヶ所でのお話と説教、次の日に離日と83才とは思えぬ体力と絶えることのない笑顔に、感動とパワーを頂いた方は多いのではないのでしょうか。

ホルヘ(パパ様)の祖父がイタリアからブエノスアイレスへ移民してきたところから、誕生・成長・召命・イエズス会神学院長・管区長・司教・枢機卿・ついには教皇に選ばれるまでが、600数十頁にわたって書かれています。アルゼンチンの複雑な政治状況と、

南アメリカの教会内の対立、イエズス会のそしてローマでの緊張関係…、2005年のコンクラーベで教皇候補になり、2013年教皇に選出されます。いつも貧しい人びと、困難にいる人々とともにいて、行いを通して貧しい人に寄り添い続ける姿、誰にでも語りかける気安さが、さまざまな事実と場面の中に記録されている評伝となっています。なお、本文中に2回日本管区長レンゾ神父の名が出てきます。

力強くも温かいパパ様は すごーい！ 本当にスゴーイ！ ドームの5万人の中で、ともにミサに与れたことを、祝福を受けたことを、あらためて感謝でいっぱい気持ちになりました。

(ペトロ・アントニオ)

去る1月20日に大寒を迎えた。各スキー場は頭を抱えているという。例年に比べて降雪が極端に少なく、雪不足に悩まされている。阪神地方でも温暖な日々が続き、寒がりの私には願ってもない。しかしながら冬は必ず寒く、厳しくなければならない。自分が体験した温度の下限はマイナス10度、ハンブルグの港近く、タグボートによって大きな船が河（運河？）一杯に旋回させられていた時だっけ。寒さ対策には衣類こそが大切と考えるが、もっとも重要なものはむしろ履物・靴だと知った。凍てついた地面から這い上がる寒さをいかに防ぐのか、しっかりした本革の靴こそ他に代えがたい。

1月17日に、阪神淡路大震災の25周年を厳粛に祈念した。当時は上智で教鞭を取っていたが、三日後にたまりかねて御影の実家に駆けつけた。大阪までは何の問題もなかったが、西宮からは全てが断絶しているため阪急の線路に沿って歩いた。戦争の破壊とは全く異なり地震の被害は甚大で、今まで見たこともない倒壊や焼失の光景に胸がつぶれた。瓦礫の山また山、煙のいがらっぽい臭いがまだ立ち込める場所、大きく道路側に傾く建物、三階部分が押しつぶされたビルなど、地震の巨大さと人間の営みの脆さとを痛く感じさせられた。言葉としては「万全を期す」などと安易に言ったり聞いたりするが、人間の増長慢・身の程知らずな思い上がりの語かもしれない。自然のとてつもない不可測の力を前に、前準備も予行演習も事前のマニュアルもまるで通用しないかのようだ。あら

ゆる人力・人知による対策の前にも後にも、「自然・神仏への畏怖」の念を決して忘れてはならない。

この未曾有の災害を思い起こすにつけ、自分に一番ショッキングなのは25年という過ぎ去った時の重みである。たしかにこの大災害で自分の家族や親類で生命を落とした人はいなかったが、以後の歳月で母と二人の妹や三人の親族を喪った。また私事ではあるが25年間のほぼ全ては、各地の教会の現場で司牧や宣教の任務に費やされた。夢かウツツのうちに過ぎ去った月日、多くの御好意の方々と各地で繰り広げられた出会いと関わりと別れの数々、今も心に行き来するほのかな遠く隔たった思い出のあれこれ。25年間という時の堆積にもかかわらず、その実質の儚さ軽さ淡さに慌てふためいている。その原因はおそらく、あと何年とも知れない残りの日々への頼み難さや分からなさも大いに影響しているにちがいない。ルカにおけるイエスの誕生の結びに、シメオンはイエスを両腕に抱きながら「主よ、今こそ私を安らかに去らせてくださいます。私のこの眼が主の救いを見たからです」と祈った。キリスト者たちは一日の終わりに同じ言葉を繰り返し、教会の祈りの終課としている。私たちは月並みな毎日の送り迎えの中に、その平凡さに溺れながらも神が与えてくださる時の恵みを心から感謝して引き受けようではないか。「主よ、私の時は御手の中にあります」と。

中村健三 合掌



🌐 避難訓練実施 🌐

1月26日10:00ミサ後、地震を想定した避難訓練が行われました。六甲教会としては、初めての避難訓練です。『地震が発生する確率 25%は、交通事故にあう確率より高い』との神父さまの言葉に、他人事ではなく、しっかり、自分事と捉えたいと思いました。(今後の取り組みなどは、3月号に掲載予定)

【 2020年2月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
						1
						結婚準備セミナー①
2	3	4	5	6	7	8
主の奉献 小教区評議会 12:00	福者ユスト 高山右近殉 教者		日本 26 聖人殉教 者		初金曜日ミサ 7:00 10:00 第3回社会活動 部連絡会11:00 ◎灘西・中央	社会活動部炊 き出し 結婚準備セミ ナー②
9	10	11	12	13	14	15
年間第5主日 新教会建設献金の日 地区役員会⑥ 12:00		世界病者の日 教会受付休み			◎東灘北 1	典礼部会 10:00 結婚準備セミ ナー③
16	17	18	19	20	21	22
年間第6主日 ふれあい広場					◎東灘北2・芦屋	聖ペトロの使徒 座 結婚準備セミ ナー④
23	24	25	26	27	28	29
年間第7主日 春の墓参 施設管理部会 11:30 祈りと音楽の集い 14:00			灰の水曜日 (大斎・小斎) 四旬節中、四旬節 愛の献金 ミサ 7:00 10:00 19:00		◎東灘南	結婚準備セミ ナー⑤

◎は掃除当番地区です



<p>次回2月号の発行は、2月29日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持 参いただくか、FAX やメールでお願いいたしま す。皆様からの原稿をおまちしております。</p> <p style="text-align: right;">(広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メ ー ル renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	--